

緩和ケア室

1. スタッフ

室長（教授）	岡島 美朗
医員（助教）	瀧澤 裕 前田 悠希
看護師	大久保ゆかり（専従） 大西由紀子（兼任）
薬剤師	中川 朗宏
公認心理師	馬場 知子 飯塚 彩
作業療法士	岡本阿由美
管理栄養士	村越 美穂
医療ソーシャルワーカー	大塚 智秋

2. 診療科の特徴

- ・ 日本緩和医療学会専門医
瀧澤 裕
- ・ 緩和ケア指導者研修会修了者
前田 悠希 他 1名
- ・ 精神腫瘍学指導者研修会修了者
岡島 美朗
- ・ がん性疼痛看護認定看護師
大西 由紀子
- ・ 緩和ケア認定看護師
大久保 ゆかり

3. 診療時実績

- 1) 外来新規介入者数 65名
- 2) 入院新規介入者数 144名

4. カンファレンス

火曜日 オピオイドラウンド
金曜日 症例検討会
月曜日（隔週）

症例検討会、運用会議

5. 部門・部署ごとの事業計画

- ・ 目標に対する2023年度の達成度
緩和ケア研修会を1回開催した。また、就労支援（お仕事継続、就労相談会）を18回開催し、のべ21名が利用した。また、患者向けがんサロンを5回（対面：4回、オンライン：1回）で開催し、8名の参加があった。
- ・ 地域がん診療連携拠点病院の維持に向けた緩和ケア活動のさらなる充実（苦痛のスクリーニングの実施、診断時からの早期緩和ケアへの取り組み）
- ・ 心不全患者への緩和ケア介入
- ・ 緩和ケアの啓蒙活動
教職員への講演会は実施できなかった。
- ・ 日本緩和医療学会認定施設認定
- ・ 埼玉県がんワンストップ相談事業への協力
- ・ 2023年度の目標：診療の充実（心不全など非がん患者に対する緩和ケア介入の充実を含む）、意思決定支援の取り組みの強化、研究・学会活動の活性化、院内におけるオピオイド系鎮痛薬の適正使用にむけての一層の取り組み（オピオイド変更のためのマニュアル整備）、当院からがん患者が転院する際のオピオイド投与が適正に行えるように情報提供ができることを目指す。

外来化学療法室

1. スタッフ

室長（教授）	鈴木 浩一
医員（助教）	市田 晃佑
看護師	16名（認定看護師 1 名）
薬剤師	3 名（認定薬剤師 2 名）

2. 診療科の特徴

外来化学療法室（オンコロジーセンター）は外来棟新設に伴い、2017年5月に開設されました。ペインクリニックと緩和ケア室が併設された、さいたま医療センターの外来癌診療の拠点となる施設です。

抗がん剤治療の多くは外来通院で行えます。大腸がん、胃がん、乳がん、肺がん、婦人科がん等多くのがん患者さんが入院する事なく外来通院で抗がん剤治療を行っています。吐き気や食欲不振、しびれや痛みなどの症状は支持療法によって緩和され、仕事の継続や日常生活の維持が可能です。外来通院によるがん診療の拠点部署が外来化学療法室です。

抗がん剤治療は日々進歩しています。新しい薬剤の導入によって治療成績は向上し、副作用を軽減させる支持療法の開発によって生活の質を落とすことなく治療が継続できるようになりました。それは、専門性の高い知識を持った医療従事者が集まり、組織の枠を超えてチームを結成し、チームが一丸となってがん治療に向き合うことによって実現されました。新たな薬剤の知識はすぐさまチーム内で共有され、効果的な薬剤や最適な支持療法がチームで決定され患者さんに提供されます。

外来化学療法室では、一日60-70件、一ヶ月700-800件程度の抗がん剤治療を行っています。ペインクリニックや緩和ケア室も併設され、痛みのコントロールや心理的サポートなど、がん患者さんの全人的なケアを行っています。

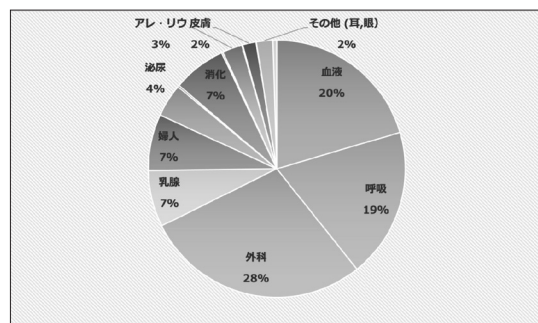
当センターは「地域がん診療連携拠点病院」に指定され、地域におけるがん診療の中核的な役割も担っています。「地域がん診療連携拠点病院」の役割は、

- 1, 専門的ながん医療の提供
- 2, 地域における診療連携協力
- 3, がん患者さんに対する相談支援および情報提供
- 4, 院内がん登録への情報登録および利用です。

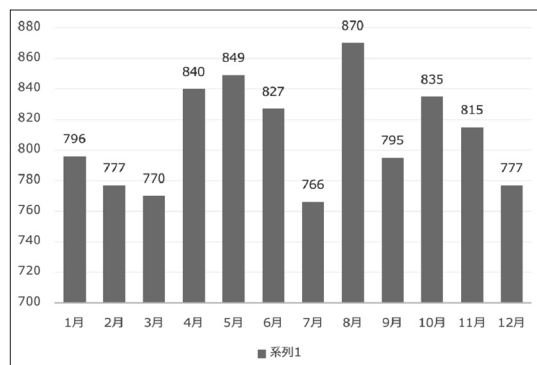
地域のがん診療の拠点病院として、地域の皆様に質の高いがん医療を提供するとともに、その情報を公開することで患者さんが安心して治療を受けられるよう努力しています。さらにその質の高い医療を地域全体で切れ目なく提供できるよう地域連携を強化し、医療の均てん化を目指しています。

3. 診療実績

診療科の内訳（2023年度）



患者数の推移（2023年度）



4. カンファレンス

カンサーボード（2023年度）

日時	内容
1月	緩和ケア・化学療法：症例検討
2月	MDS治療歴あり。大腸癌多発転移の薬剤選択：症例検討
2月	irAE（間質性肺炎）症例提示：レクチャー
3月	症例提示（悪性リンパ腫）：レクチャー
4月	巨細胞性動脈炎：症例検討
5月	巨細胞性動脈炎：経過報告
6月	BRCA等、遺伝子パネル：レクチャー
7月	irAE（下痢・大腸炎）：レクチャー
8月	irAE関連の症例提示：症例検討
10月	難治性がん疼痛・神経障害性疼痛について：レクチャー
11月	irAE（肺臓炎）の診断について：症例検討
12月	肺癌骨転移の治療方針：症例検討
12月	重複癌（肝内胆管癌と肺癌）の治療方針：症例検討

5. 事業計画

- ・ 外来化学療法室の体制整備
- ・ 癌拠点病院の施設認定の体制維持
- ・ キンサーボードの運営
- ・ 病病連携、病診連携、薬薬連携の促進
- ・ 研修・人材育成
- ・ 学校での教育開始
- ・ 検診の普及・啓蒙

がんゲノム医療室

1. スタッフ

室長（教授）	鈴木 浩一
医員（教授）	大城 久
医員（助教）	市田 晃佑
事務	金井、青山、会田
その他	18名

2. 診療科の特徴

【概要】

自治医科大学附属さいたま医療センターは2023年4月1日に厚生労働省から「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け、「がんゲノム医療」を一括して管理する「がんゲノム医療室」を新設しました。各領域の医師、がん専門薬剤師、がん専門看護師、認定遺伝カウンセラー等多職種で構成される組織です。「がん遺伝子パネル検査」を行い、その結果に基づいて最適な「がんゲノム医療」を患者さんに提供します。

【がんゲノム医療について】

患者さん固有のがん遺伝子の変異を特定し、その結果に基づいて行う医療を「がんゲノム医療」といいます。特定した遺伝子変異に対して特化した治療薬の開発により、がんの治療成績は飛躍的に向上してきました。

【がんゲノム医療拠点病院等について】

「がんゲノム医療」を必要とするがん患者が、全国どこにいても「がんゲノム医療」を受けられる体制を構築するため、2018年に「がんゲノム医療拠点病院」が指定されました。当センターは「がんゲノム医療中核拠点病院」である東京大学医学

部附属病院と連携し、がんゲノム医療連携病院として、最適な「がんゲノム医療」を患者さんに提供します。

2018年6月にはがんゲノム情報管理センター（C-CAT）が開設され、「がんゲノム医療」の情報収集体制が整備されました。そして2019年6月には「がんゲノム医療」を担う「がん遺伝子パネル検査」が保険収載されました。

【がん遺伝子パネル検査】

当センターでは、2023年6月より遺伝子パネル検査を開始しました。FoundationOne® CDx がんゲノムプロファイル（中外製薬株式会社）と FoundationOne® Liquid CDx がんゲノムプロファイル（中外製薬株式会社）の2種類のパネル検査を受けることができます。

3. 診療実績

2023年6月から12月までの半年間に17件の検査を行いました。件数の推移と内訳、診療科、同定薬剤を参考資料（*）に示します。実際投薬が行われたのは、MEK 阻害剤の一例です。

4. カンファレンス

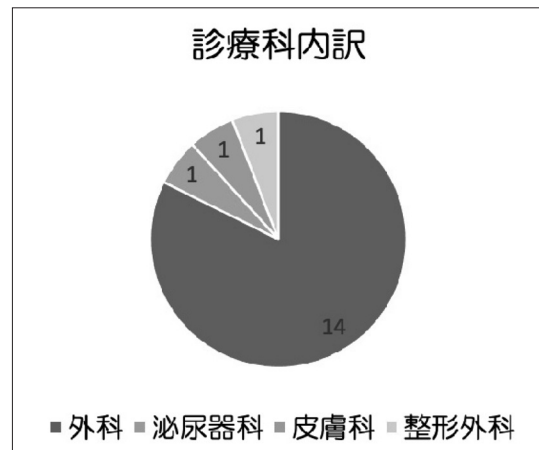
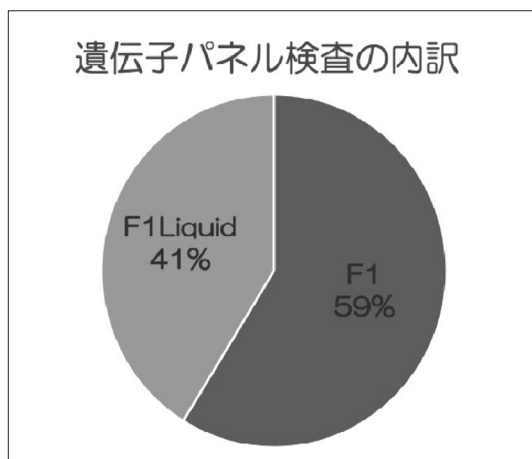
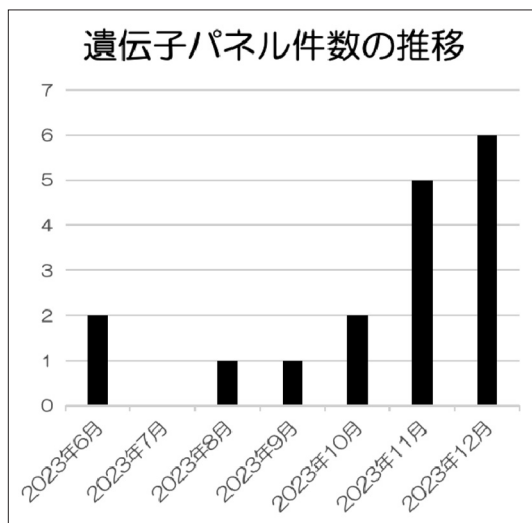
エキスパートパネル 毎週金曜日17：30-

5. 活動

- （1）遺伝子パネル検査
- （2）ゲノム情報の管理
- （3）がんゲノム情報管理センター（C-CAT）への情報登録

- (4) 東京大学医学部附属病院で行われる
エキスパートパネルへの参加
- (5) 遺伝カウンセリング
- (6) がんゲノム医療の情報の周知・共有、
研修会や、講習会の開催
- (7) 院外への周知

(*) 参考資料



同定薬剤	数
RAS阻害薬	8
PRMT5阻害薬	2
PARP阻害剤	1
MEK阻害剤	1
CBP/ β -カテニン阻害薬	1
EGFR阻害薬	1